

寄付金助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2020年4月20日
事業ID:2019-A025-013
事業名:沖縄県うるま市における第三の居場所
(A)における利用児童向けイベントの
実施及び備品の整備
団体名:一般社団法人りあん
代表者名:山城 康代 印
TEL:098-972-6200
事業完了日:2020年3月31日

事業費総額	911,802円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	1,802円	収支計算書の緑のセルの値
支援金額	910,000円	収支計算書の赤のセルの値。
支援金返還見込額	0円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容(実績。700文字以内):

1、子どもの遊びに必要な遊具の整備

(1)期間:2019年4月~12月

(2)場所:沖縄県うるま市

(3)内容:子どもの遊びの幅を広げ、遊びの中で身体及び心の発達を促した。

2、沖縄県うるま市における第三の居場所(A)における長期休みの旅行

(1)期間:2019年長期休み中

(2)場所:国内旅行

(3)参加者:拠点利用児童6~7名程度、スタッフ4~5名程度

(4)内容:

- ・「非日常」の体験や経験を盛り込んだ旅行
- ・行き先やその他でやりたいことを利用児童が企画した。
- ・意見の交換や合意形成、集団での関わり等について学んだ。

上記の話し合いをもとに、旅程を作成して旅行を行った。

2.事業内容詳細:

・当施設は敷地面積が狭いこともあり、子どもにとって必要な「体を思いっきり使って遊ぶ」ことや「ひとりになる」ことが難しい環境にある。一人当たりの空間を作るため、相手との仕切りになるテントやマット、雨の日に室内で過ごすことができる工作グッズなどに必要性を感じ整備した。また、春休みに離島への宿泊を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で中止。小中学校が長期休校となった期間にレンタカーで近隣の公園へ移動して体を使った遊びや、海辺を散策し工作の道具を見つけるなどを行った。他にも県総合運動公園に行きサイクリングや大型遊具で思い切り体を使って遊ぶ活動や、いちご狩り体験を行うなど、宿泊の代替として児童らの外遊び体験に活用した。

【事業内容の変更点】

1、子どもの遊びに必要な遊具の整備

(1)期間:2019年4月～12月

- ・期間は2019年4月～3月末へ変更

2、沖縄県うるま市における第三の居場所(A)における長期休みの旅行

・新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の観点から旅行は中止。それに変えて休校中の間、レンタカーで公園遊びや海辺散策、サイクリング、いちご狩りなど、児童の希望を取り入れながら外遊び体験を行った。

3.契約時事業目標の達成状況:

【支援事業契約書記載の目標】

1. 子どもの遊びに必要な遊具の整備

- ・室内遊びに利用するボードゲームやレゴブロック、工作に利用する絵の具や工具などの購入。
- ・外遊びで利用するボールやバットなど、体を使って遊ぶ道具を整える。

2. 宿泊を伴う旅行を実施し、子どもの自立する力を養う。

- ・離島体験で、普段感じることのできない空気や音、景色などを五感で感じ取り、児童らで立てた企画で行動し、仲間同士の連携や助け合いを学ぶ機会にする。

【目標の達成状況】

1の達成状況:児童を観察し、個々の成長段階と希望を確認しながら必要性のあるものを整えることができている。

2の達成状況:新型コロナウイルス感染防止の観点から中止。活動予定を変更した。

4.事業実施によって得られた成果:

1の成果:敷地面積が狭い為、活動の幅が広がらないことに不安があったが、ボールや自転車、竹馬、コマなど、児童らが希望する道具を揃えることによって、その道具をどう活用するか、敷地を有効に使うにはどうすればいいのかをお互いで話し合い、タイマーを使って交代制にするなど、敷地ぎりぎりまで活用して遊んだり、場所を区切って遊んだりとその時の状況(児童の数や天気など)に応じて児童らで工夫して遊びを楽しんでいた。工作グッズは創りたいものの希望をとり、注文から手元に届くまで楽しみにしながら待つことができた。待つ間も何を作ろうかと創作意欲を持ち続け、到着後はすぐに消費しないよう、「雨の日だけ創る」、「一人〇個まで」と児童らで話し合い、ルール決めや交渉などを行う姿が見られた。

2の成果:新型コロナウイルス感染防止の観点より宿泊は中止。小中学校が休校の期間、レンタカーで近隣の公園やサイクリング、いちご狩り等の活動を行い、敷地内ではBBQなどでプチイベントの気分を味わった。遊びに制限がかかる児童らのストレス軽減にかなり有効となった。

5.成功したこととその要因:

1の成功要因:児童らの希望を取り入れることによって、「自分たちが選んだ道具」として責任を持ち、有効に使える手立てや「どう使うか」を巡って相手と交渉を行うようになった。

2の成功要因:感染拡大防止による外遊びの制限で児童らのストレスが大きくなり、室内でのトラブルが目立っていたが、レンタカーでのドライブで景色の変わる様を見ることでリフレッシュされ、空いている公園を発見してはそこで外遊びを楽しむなど、ゲーム感覚を得ながらストレスの軽減に役に立った。海辺で工作の道具を採取したり、海ぶどうを見つけて「夕飯の材料をとろうぜ！」と勝負したり、自分たちで遊びの幅を広げていた。

6.失敗したこととその要因:

1の失敗要因:必要な道具整備を後半に集中しすぎたために前半の活動が少し抑えめになってしまった。年度初めに整備の計画を立てておくべきだった。

2の失敗要因:宿泊を年度末に計画したために予期せぬ中止となった。長期休みでなく、連休も宿泊旅行の対象とするか検討する。

7.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:

- ・児童の希望に沿って環境整備を行ったが整備内容に偏りが見られるため、身体・知力・想像力・創作・安全・地域交流などの項目を設定し、振分を考えて整える必要性を感じた。
- ・宿泊は中止となったが、レンタカーによるドライブや外遊びで児童のストレス軽減にかなり有効性を感じた。しかし、後半に大きなイベントを設定すると予期せぬ事態で中止になる可能性もあることを念頭に入れ、1度に大きなものではなく、中規模イベントを2つ行う振分も検討する必要性を感じた。

事業成果物及びURL:

【成果物の名称】

【成果物がアップロードされているCANPANのURL】

【助成機関】

機関名：公益財団法人日本財団

URL：<https://www.nippon-foundation.or.jp/>